

厚木市
子ども医療費助成に関する
アンケート調査

調査結果

厚木市
令和4年11月

1 調査の概要

(1) 調査目的

本市では現在、中学校卒業までの子どもを対象に医療費助成を行っているところですが、今後、助成対象の子どもの年齢の拡大等を検討するに当たり、本事業の利用者(対象児童の保護者等)の皆様から、利用状況や妥当と思う対象年齢その他御意見等を伺い、制度設計の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

(2) 調査項目

- ア 対象児童の年代【選択式】
- イ 医療機関受診回数(年間)【選択式】
- ウ 医療機関の主な受診理由【選択式】
- エ 妥当と思う子ども医療費助成の対象年齢【選択式】
- オ 子ども医療費助成制度が生活に役立つ点【選択式】
- カ 子ども医療費助成制度に関する御意見、御要望【自由記載式】

(3) 調査設計

- ア 調査地域
厚木市全域
- イ 調査対象
厚木市在住の16歳以下の男女児童の保護者(外国人住民を含む。)
- ウ 調査対象者数
3,000人
- エ 抽出方法
住民基本台帳を基に「対象児童」を無作為抽出
(対象児童の年代及び居住地区は、全体の構成比に基づく。)
- オ 調査方法
郵送配布、郵送回答
- カ 調査期間
令和4年10月14日(金)から10月28日(金)まで

(4) 回収結果

有効回収数及び回収率は次のとおり。

- ア 有効回収数 1,492人
- イ 回収率 49.7%

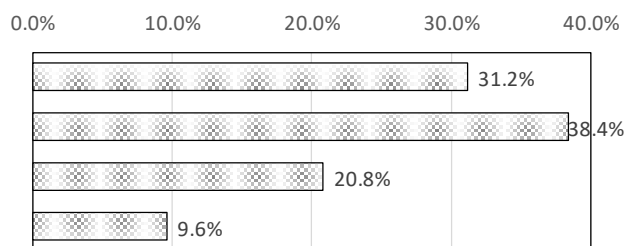
(5) 報告書の見方

- ア 集計は、小数点以下第2位を四捨五入していることから、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- イ 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出しました。
- ウ 本人や図表中の選択肢表記は、語句を短縮、簡略化している場合があります。
- エ 16歳以下の児童が複数いる世帯については、抽出対象となった児童に関して回答するよう求めています。

2 調査結果

(1) 対象児童の年代【問1、選択式】

対象児童の年代	回答者数(人)	構成比(%)
① 小学校入学前	465	31.2%
② 小学生	573	38.4%
③ 中学生	311	20.8%
④ 高校生年齢	143	9.6%
回答者数全体	1,492	100.0%

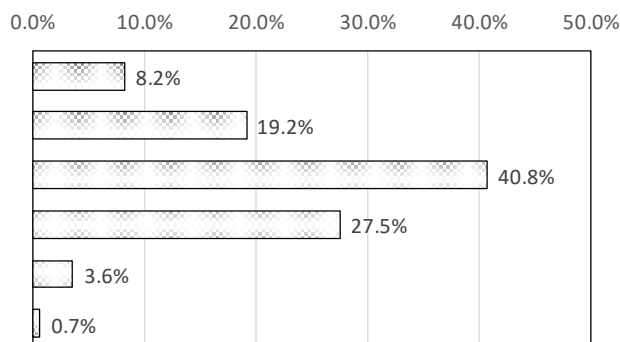


※ 対象児童の年代別の無作為抽出件数の内訳が、①小学校入学前 884 件、②小学生 1,093 件、③中学生 613 件、④高校生年齢 410 件となっています。

※ 対象児童の年代別の回答率は、①小学校入学前 52.6%、②小学生 52.4%、③中学生 50.7%、④高校生年齢 34.9%、全体の回答率が 49.7%となっています。

(2) 医療機関受診回数(年間)【問2、選択式】

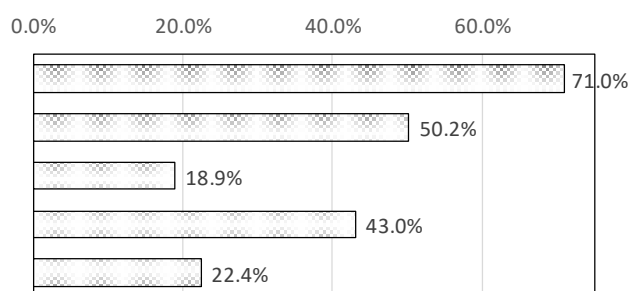
医療機関受診回数(年間)	回答者数(人)	構成比(%)
① 年1～2回程度	123	8.2%
② 年3～4回程度	286	19.2%
③ 年5～11回程度	608	40.8%
④ 年12～24回程度	411	27.5%
⑤ 年36～48回程度	54	3.6%
⑥ 年60回以上	10	0.7%
回答者数全体	1,492	100.0%



※ 医療機関の年間の受診回数については、構成比が大きい順に③年5～11回程度、④年12～24回程度(月1～2回程度)、②年3～4回程度、①年1～2回程度、⑤年36～48回程度(月3～4回程度)、⑥年60回以上(月5回以上)となっています。③年5～11回程度、④年12～24回程度(月1～2回程度)の構成比が特に高くなっています。

(3) 医療機関の主な受診理由【問3、選択式】

医療機関の主な受診理由(複数回答可)	回答者数(人)	回答した人の割合(%)
① 急な発熱、風邪等	1,059	71.0%
② アレルギー等慢性的疾患	749	50.2%
③ 捻挫、骨折等の怪我	282	18.9%
④ 虫歯などの歯の疾患	642	43.0%
⑤ その他	334	22.4%
回答者数全体	1,492	-

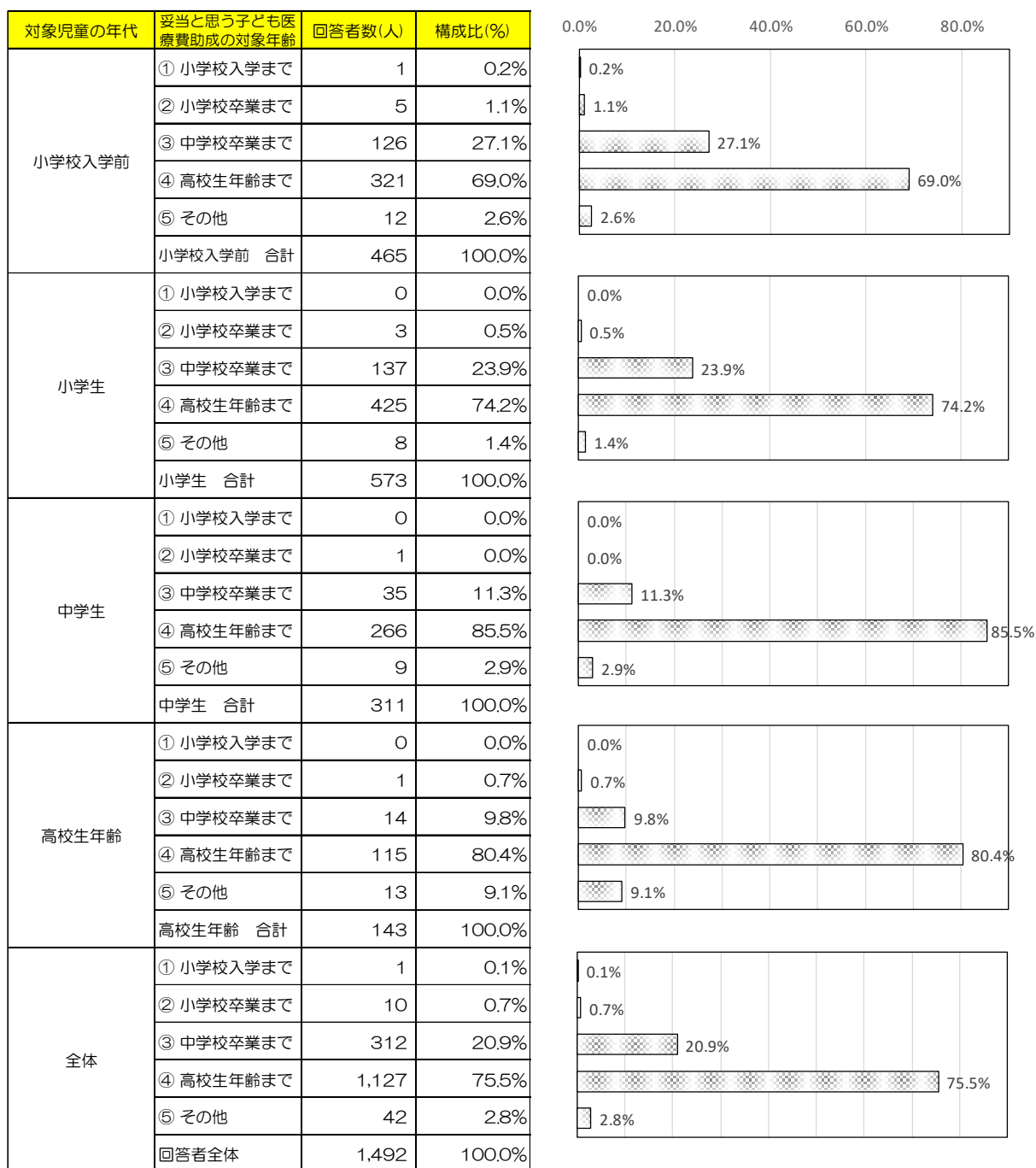


※ この項目は複数回答を可能としています。

※ ①急な発熱、風邪等、②アレルギー等慢性的疾患、④虫歯などの歯の疾患の割合が特に高くなっています。

※ ⑤その他に挙げられた主な受診理由は、アトピーなど皮膚の疾患、近視・弱視など目の疾患、療育相談、心療内科・精神的疾患、先天的疾患などがありました。

(4) 妥当と思う子ども医療費助成の対象年齢【問4、選択式】



※ 全体を通して、妥当と思う子ども医療費助成の対象年齢については、④高校生年齢までとする回答が圧倒的に多い結果となっています。

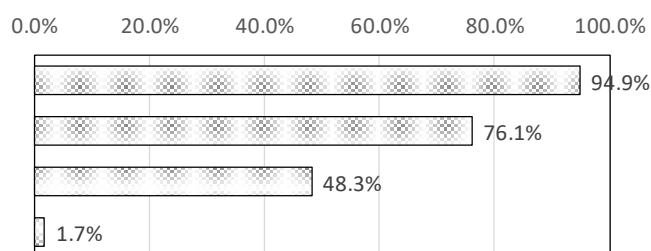
※ 今回のアンケート調査において、本設問は特に重要であるため、対象児童の年

代別にクロス集計を行ったところ、対象児童の年代が高い方が妥当と思う子ども医療費助成の対象年齢を④高校生年齢までと回答する割合が高い傾向にあり、中学生、高校生年齢の年代では80%を超える結果となっています。

※ ⑤その他に挙げられた主な対象年齢は、19歳まで、20歳まで、学生など養育者に扶養されている間などがありました。

(5) 子ども医療費助成制度が生活に役立つ点【問5、選択式】

子ども医療費助成制度が生活に役立つ点	回答者数(人)	回答した人の割合(%)
① 経済的負担の軽減	1,416	94.9%
② 子どもの健全な成長促進	1,136	76.1%
③ 少子化対策	720	48.3%
④ その他	26	1.7%
回答者数全体	1,492	-



※ この項目は複数回答を可能としています。

※ ①経済的負担の軽減の回答を選んだ人の割合が90%を超える結果となっています。

※ ④その他に挙げられた主な生活に役立つ点は、子育て世帯の定住促進、人口増加、虐待防止や早期発見、受診控えによる感染症拡大のリスク軽減などがありました。

3 子ども医療費助成制度に関する御意見、御要望【自由記載式】

意見の趣旨	意見件数(件)
対象年齢拡大支持	386
好意的な感想等	133
市への謝意、激励	111
助成内容の充実要望	26
現行制度への提案	25
現状維持	13
所得制限	9
その他	112
自由意見合計	815

※ 自由意見欄につきましては、対象年齢拡大を支持する御意見、御要望を多くいただきました。なお、子ども医療費助成度以外の子育て施策に関する御意見、御要望につきましては、今後の参考とさせていただきます。

4 まとめ

本調査を通じて、本市の子ども医療費助成制度が高く評価されており、対象年齢の拡大についても全体の75%を超える広い支持を得られることが分かりました。

引き続きいただいた多くの御意見、御要望等を踏まえた上で、子ども医療費助成制度の対象年齢の拡大に向けた検討を進めるものとします。